

第01回 マルチメディア表現と技術

情報とメディアの特性

便利さと人間中心は、両立するのか

第1回は、授業全体の考え方を体験する回です

担当 稲垣 俊介



稲垣俊介 博士 (情報科学)



稲垣俊介

検索



■山梨大学教育学部

学校教育を盛り上げるために、**情報教育の実践者かつ研究者**となりました。

■東京都立高校の情報科の教員

専門学校や私立学校の教員を経て、**都立高校情報科教員**となりました。

■最近の興味

「**生成AI**の授業活用」 「**情報入試**」 「**情報 I を受けた大学生への教育**」 「**高校生の情報活用能力**」



今日の流れ

- 自己紹介
- 事例を見る
- まず判断する
- 事実が増える
- もう一度考える
- 最後に「高校でどう扱うか」を考える



自己紹介

- ・ 名前・学年・最近よく使うメディア1つ
- ・ そのメディアの「便利な点」と「少し怖い点」を1つずつ

1人30～1分程度



この授業で大切にすること

- 結論より理由
- 人ではなく考えを扱う
- 立場が変わってよい
- 個人経験の開示は求めない
- 入力は率直に、発言は相手を尊重して



この授業のねらい

- マルチメディア表現と技術の全体像を理解する
- 情報技術の特徴を具体例で考える
- 高校「情報 I」の授業づくりにつなげる
- 個人演習・グループ演習・発表で学ぶ



大きな問い

表示内容

教育のために情報を残すことは、
いつ人を守り、いつ人を傷つけるのか。

結論を急がず、条件を動かしながら考え
ます。

事例1

表示内容

県立A高校の「情報 I」では、欠席者支援のため、授業の発表場면을自動録画し、チャットも保存していた。

ある日、Bさんが「SNSで拡散された画像に苦しんだ経験」について3分間の発表をした。

発表中、数人の生徒がチャットに「大げさ」「自分にも原因があるだろ」などと書き込んだが、担当教員はその場で気づかなかった。

授業後、Bさんは泣きながら教員にこう訴えた。
「動画もチャットも全部消してください。
あれが残るのは耐えられません。」

Googleフォーム

入力すること

- ・ A～Dの選択
- ・ 確信度 0～100
- ・ 理由 1～2文

選択肢

- A すぐに動画とチャットを削除する
- B まず公開を止めて一時凍結する
- C 学校内で限定的に保全する
- D まだ判断を保留したい



話し合い 1

- いま、自分は何を守ろうとしているのか
- だれに、どんな利益・不利益があるか
- 「削除」と「保全」は何が違うか
- まずは全員が1回話す



ここで1つ整理

- 情報は、それ自体では見えません
- 情報は、必ず何らかのメディアを介して扱われます
- 動画・音声・文字・チャットログは、同じではありません
- だから「残すか」だけでなく「何を残すか」を考える必要があります



事例2

- 書き込みをしたとされる生徒は、「冗談だった」「そんなことは書いていない」と否認している
- 保護者面談でも事実確認が必要になった
- 授業動画とチャットログは、学校側に残っている唯一の記録である
- すでに1人の生徒が録画を自分の端末に保存していた
- さらに20秒の切り抜き動画が非公式グループに出回っている



Googleフォーム 2

入力すること

- いまの判断をA / B / C / Dで入れ直す
- 確信度 0~100
- 削除すると、だれが守られ、だれが困るか
- 切り抜き / フル動画 / チャットログの違いを一言



情報の代表的な特性

- 形がない
- 消えにくい
- 簡単に複製できる
- 容易に伝播する



事例 3

- スクールカウンセラーは「原本は一定期間、支援と再発防止のために必要」と言う
- 学年主任は「匿名化した再現教材にすれば、今後の情報モラル教育に生かせる」と言う
- 担当教員は「監督不十分について説明責任があるので、原本は残したい」と感じている
- しかしBさんは「私は教材になりたくない」と拒否している

最後の発問

- 原本の保持は、支援や調査のためなら許されるか
- 動画 / 音声 / 文字起こし / 要約 / 再現教材では、何がかわるか
- だれが、何を、何のために、どこまで、いつまで残すべきか

グループの最終方針案

1分で発表できる案を作る

必ず次の5点を入れる

- 1 何を残すか
- 2 どの媒体で残すか
- 3 だれが見られるか
- 4 何のためか
- 5 いつまでか

A / B / C / Dだけで終えない話ですね。



発表で見たいこと

- 結論より、条件の置き方
- 被害者保護と事実確認の両立
- 原本利用と教材化を分けて考えているか
- 情報とメディアの特性を理由に使えているか



Googleフォーム 3

入力すること

- 最終判断 A / B / C / D
- 最終方針
- 一番重要だと思った特性
- まだ迷っている点
- 高校「情報 I」で扱うなら、何を学ばせたいか



今日のまとめ

- 問題は「残す / 消す」の二択ではありません
- 「何を・どの媒体で・だれに・何のために・いつまで」が問われます
- 情報は、人を守ることも傷つけることもあります
- だから教師は、情報の扱いそのものを設計する必要があります

